

Memoirs of the Osaka Institute  
of Technology  
Vol.59, No.1(2014) pp.55~59

## 動詞 *manage* の含意についての一考察

田岡 育恵

情報科学部 情報メディア学科

(2014年5月31日受理)

### A Study on the Implications of the Verb *Manage*

by

Ikue TAOKA

Department of Media Science, Faculty of Information Science and Technology

#### Abstract

Like the ironical use of the verb *fail*, the verb *manage* is also used ironically in that the subject of the sentence seems to try to achieve an event that is unfavorable to the subject, for example, *Andrew has managed to get himself sacked. I don't know how I managed to arrive so late.* The implication of the verb *manage* is “difficulty” or “unlikelihood” of the event, which could be cancelled in the context where the event turned out to have occurred easily. Just because the verb *manage* has the implication of “difficulty”, its ironic use is all the more effective based on the interpretation that the subject is making efforts to cause a difficult event which is not beneficial for the subject at all.

キーワード; 動詞の含意, アイロニー, 動詞 *manage* の用法

**Keyword;** implications of a verb, irony, the use of the verb *manage*

---

## 1. はじめに

Taoka (2013) において, fail to 不定詞の to 不定詞部に, (1a-c) のように「乗り物酔いをする」, 「性的偏見を持つ」, 「妨げられ締めつけられる」というような, 望ましくない事態が来る場合があることに注目した.<sup>1)</sup>

- (1) a. ...and the little sister who never failed to get carsick.  
(八木 (1996: 121f.))<sup>2)</sup>
- b. Given its concern with the exercise of public power, political elites and government institutions, the modern study of politics can not (*sic*) fail to be sexist.  
(BNC: CM5)<sup>3)</sup>
- c. It will come as no surprise to discover, then, that Spencer was highly critical of statutory intervention, arguing that it stifled liberty and led to rigidity and uniformity: Society, a living growing organism, placed within apparatuses of dead, rigid, mechanical formulas, cannot fail to be hampered and pinched.  
(BNC: EAJ)<sup>4)</sup>

(1a-c) の場合, 事態の成立を主語が意図していたとは言えない事態が to 不定詞に来ている. それなのに, 何故「～し損なう」という動詞 fail を用いるのか. Taoka (2013) では, これはアイロニーによる事態の不可避性の強調とした.<sup>5)</sup>

(1a-c) の例では, すべて never や not といった否定を伴い, 「～し損なうことはない」というように, 必ずそのような望ましくない事態になることを述べている.

not fail ということであれば, 意味的には manage と等しいと言えるのではないか. fail は事態の不成立を含意するが, manage は反対に事態の成立を含意する. したがって, manage の場合は「何とか～をやり遂げる」ということになるが, その達成すべき事態は, 当然, 目標とされるのにふさわしい望ましいことと考えられる. しかし, ここでも fail の場合と同じように, to 不定詞に望ましくない事態が来ることはあるのだろうか.

この問いを出発点として, 本稿では, 動詞 manage の意味, 用法について考察する手がかりを模索したい.

## 2. Manage のアイロニー用法

先ず, 1 節で出した, manage においても主語が望ましくないような事態が to 不定詞に来ることはあるのかという疑問であるが, 答えはイエスである. たとえば『ウィズダム英和辞典』では「...を何とかする, やつてのける」が manage の第 1 義に挙げられているのだが, そこ

に「(皮肉で) ものの見事に...する」という用法も挙げられている.<sup>6)</sup>

LDCE<sup>4</sup> においても, DO STH DIFFICULT [I, T] to succeed in doing something difficult, especially after trying very hard の意味が先に挙げられているものの, CAUSE PROBLEMS [T] to do something that causes problems—used humorously という用法が挙げられている.<sup>7)</sup>

『ウィズダム英和辞典』, LDCE<sup>4</sup> に挙げられていた例文は, (2a, b) のようなものである.

OALD<sup>7</sup> においても, humorous という注付きで, (2c) のような例文が挙げられている.<sup>8)</sup>

MED<sup>2</sup> では, 1a [T] often humorous to succeed in doing something annoying or wrong という説明で, (2d) のような例文が示されている.<sup>9)</sup>

瀬戸 (2007) においても, (しばしば反語的に) (不定詞を伴って) 不覚にも(愚かにも・不幸にも)…してしまう, という用法が挙げられている.<sup>10)</sup>

- (2) a. She always manages to forget something. (おどけて) まったく彼女はいつも何か忘れてくるよ.  
(『ウィズダム英和辞典』)
- b. Andrew has managed to get himself sacked. / I don't know how I managed to arrive so late. (LDCE<sup>4</sup>)
- c. (humorous) He always manages to say the wrong thing. (OALD<sup>7</sup>)
- d. How do you manage it? You've only been home five minutes and already the place is a mess. / Mike managed to upset mother yet again. (MED<sup>2</sup>)

このような用例は, コーパスでも少なからず見受けられる. たとえば, (3a-c) は manage to lose の例の抜粋であるが, lose 「失う」というのは, lose weight のように好ましくないものを失う場合は manage の「事態成立 (この場合, 減量) に成功する」という意味に合うが, (3a-c) の「道がわからない」, 「試合に負ける」, 「お金を失う」というのは望ましくない事態であり, その事態を敢えて主語が意図的に招いたとは考え難い.

- (3) a. Although using a road map, she managed to lose herself and so stopped to ask a young man the way.  
(BNC: CDT)<sup>11)</sup>
- b. I could see only one side winning that game, yet we managed to lose it despite having numerous chances.  
(WordbanksOnline: times0037)<sup>12)</sup>
- c. Only one fund managed to lose money.

(BNC: A5S)<sup>13)</sup>

このように, manage の場合でも, 望ましくない事態が to 不定詞に来ることはある. そのような用法の意図は, やはりアイロニーだろう.

ちなみに, (4)のように, succeed でも否定的な事態が to 不定詞に来ることがあるということを MED<sup>2</sup> が示している.<sup>14)</sup> これもアイロニー用法である.

- (4) **1a** used for saying that someone's actions have a negative result that is the opposite of what they intended: They were trying to please us but just succeeded in offending everyone. (MED<sup>2</sup>)

では, そもそも manage という動詞の意味はどのようなものと考えればよいのだろうか.

### 3. Manage に含意される補文の真

Kartunen (1971:341) は, (5a) は (5b) を含意するとしている.<sup>15)</sup>

- (5) a. John managed to solve the problem.  
b. John solved the problem.

これが, manage の hope のような動詞とは違う点で, Kartunen (1971:342f.) は, (6a, b), (7a, b)の容認性の違いを示している.<sup>16)</sup>

- (6) a.\*John managed to solve the problem, but he didn't solve it.  
b. John hoped to solve the problem, but he didn't solve it.  
(7) a.\*John didn't manage to solve the problem, but he solved it.  
b. John didn't hope to solve the problem, but he solved it.

つまり, manage 肯定文なら必ず事態は成立し, 逆に manage 否定文では事態は不成立ということになる. これに対して, hope の場合は, 「望んだのに, できなかった」, 「望まないのに, そうなった」ということがあるが, manage ではそういうことはない.

では, manage を用いる場合と用いない場合で文が述べる事実関係が同じだということであれば, manage は文にどのような意味を加えることになるのか. manage を

用いる場合と用いない場合では, 何が違うのだろうか.

この両者の違いはあると思われる. たとえば, Baglini and Itamar (2013:2) が指摘するように, (8a) だからと言って (8b) にはならないからである.<sup>17)</sup> つまり, 上述とは逆から見て, manage を用いない肯定文, 否定文は, それぞれ manage を用いた肯定文, 否定文を含意しない.

- (8) a. Drefus didn't spy for Germany.  
b. Drefus didn't manage to spy for Germany.

Baglini and Itamar (2013:7) は, 更に (9)-(11) の a, b において, それぞれ a, b の文の意味に違いがあると述べている.<sup>18)</sup>

- (9) a. John managed to buy the ring because it was cheap.  
b. Jon bought the ring because it was cheap.  
(10) a. John hardly / barely managed to eat his porridge.  
b. John hardly / barely ate his porridge.  
(11) a. If Jane doesn't manage to braid her hair, she will get angry.  
b. If Jane doesn't braid her hair, she will get angry.

(9)-(11)の, それぞれ a, b の文のニュアンスについて英語母語話者の意見を聞いたところ, manage を用いた文には, 何らかの「成し遂げた」という達成の意味合いがある, 一般論ではなく特定の文脈において成立したことを述べるものであるという意見であった.<sup>19)</sup> manage を用いない文にはないニュアンスこそ manage の意味だと言えよう. そのことについて, 次節で詳しく見ていく.

## 4. Manage の含意

### 4.1 先行研究

瀬戸 (2007) の manage の意味ネットワークでは, manage の意味を次のように説明している.<sup>20)</sup> 「扱いにくい機械・人などを うまく扱う」が中心義. 大きく分けると, 物事などに「うまく対処する」と「うまく対処してある結果を出す」の意味に分かれる. 後者は前者のプロセスの結果である. 対処系では, 扱う対象の変化に応じて, 「扱いにくい金・時間・資源などを うまく扱う」「扱いにくい物事を うまく扱う」「扱いにくい組織などを うまく扱う」に意義展開する. 他方, 結果系は, 「難しい物事を うまく対処して成し遂げる」に意義展開し, ここから意味が一般化して「難儀なことを (わざわざ) 成し遂げる」の意義が

派生する(下線は筆者による)。下線部のように、扱う対象は「扱いにくい」、「難儀な」ものであるということが *manage* の意味に組み込まれている。

Coleman (1975:82) では、*manage* の意味は、まず *success* と *try* で構成されるとし、更に、*try* は *intention* と *difficulty* で、そして、*difficulty* は *volition* と *unlikelihood* で成り立つと説明している。<sup>21)</sup>

しかし、Baglini and Itamar (2013:3) が指摘するように、(12) の文の、「意図性」、「困難」、「低い蓋然性」を表す (13a-c) の各文は、それぞれ下の文を含意しているわけではない。したがって、Coleman の階層的な意味構築には賛成しがたい。<sup>22)</sup>

- (12) Harry's dog manages to wake him up whenever he dozes off on the couch.
- (13) a. The dog was trying intentionally to wake Harry up.  
b. To wake Harry up is difficult.  
c. That Harry will wake up every time he dozes off is unlikely.

他方、Baglini and Itamar (2013:3f.) は、(14a, b), (15a, b) を挙げ、「困難」と「非蓋然性」は文脈によってキャンセル可能で、これらは文脈による語用論的な意味であり、*manage* の意味ではないと主張する。<sup>23)</sup>

- (14) a. Clad in civilian clothes and having passports they easily managed to get back over the Volga.  
b. I managed to make my way through customs. It was pretty easy actually.
- (15) a. Once Klaus captured Bonnie, it was painfully obvious that Stefan would manage to kill Finn but the plan would be itself a failure.  
b. Now it's becoming obvious that Fork will manage to kill someone important.

「困難」と「非蓋然性」が文脈によってキャンセル可能というのは、(14a, b)では *easily, easy* が共起し、(15a, b)では *obvious* と共起していることを根拠としている。

更に、Baglini and Itamar (2013:2f.) は(16a, b)を挙げ、無生物主語や、また無生物主語でなくても主語の「意図」が考えられない場合があることを指摘する。<sup>24)</sup>

- (16) a. The campaign launch went well yesterday despite the looming rain clouds, it managed not to rain during the event.

- b. Our neighbor managed to schedule their one wild party of the year the night before my German exam.

本稿2節で紹介したアイロニー用法の場合も、主語が事態の成立を望んでいるとは考えられないから、主語の意図は考えられないと言えるだろう。

## 4.2 先行研究についての私見

まず、Baglini and Itamar (2013:3f.) が「困難」と「非蓋然性」は文脈によってキャンセル可能で、これらは文脈による語用論的な意味であり、*manage* の意味ではないと主張している点については、次のように考える。

結果的に「容易に」成立した事態であっても、そのような事態を想定した際には、つまり実現される前には、それは達成困難なことと思われたということが考えられる。(14a)にしても、「民間人のなりをしてパスポートを持って国境を越えた」ということだから、決して容易に遂行されることとは思えない。Baglini and Itamar とは逆に、寧ろ「容易さ」の方が文脈から生ずる意味であり、これが *manage* 本来の「困難」の意味をキャンセルするのだと考える。

蓋然性についても、事態成立があり得ないと思われることが実際には起こることが明白になってくることがある。(15a, b)は、殺人について述べているわけで、殺人が起こることが明らかになったとしても、それはその文脈でそうなのであり、殺人自体は起こりやすいこととは到底、考えられない。これも、Baglini and Itamar とは異なり、この場合の事態の蓋然性の高さは文脈による語用論的なものとする。

困難ではない事態、起こり得ると十分思われる事態を表すときに *manage* が出現していても、それゆえに、「困難」、「非蓋然性」が *manage* の意味ではないとは言えないと考える。

「難しいと思っていたけれども、簡単にできた」と言うことがある。この場合、難しいとまったく想定され得ない事態に「できた」という表現は用いられないだろう。この「できた」は、*manage* の用法に通じるところがあると思われる。「できる」と *manage* の相応については、稿を改めて論じたい。

なお、「困難」なことは「起こり得る可能性が低い」ことであり、「困難」と「非蓋然性」がつながっていることは確かであるが、Coleman のようにこれらを階層づけることには無理があると考えられる。両者をまとめて、「事態の成立し難さ」と捉え、それは、瀬戸 (2007) の *manage* の意味ネットワーク記述に出てくる「扱いにく

い、「難しい」、「難儀」に相応するものだろう。

最後に、無生物主語や、また無生物主語でなくても、アイロニー用法のように、主語の「意図」が考えられない場合があることについてであるが、これについては、アイロニーや無生物主語の場合、実際には主語の事態実現に対する意図はないのだが、表現形式において、主語の意図があるものと「見立てられている」と考える。この「見立て」については、manageに限らず、無生物主語、アイロニー用法を用いる文脈効果として、もっと広い観点から論じることができるだろう。

## 5. おわりに

主語にとって望ましくない事態を主語が成立させようとしていると取れるアイロニー用法は、failの場合と同様、manageにおいても見られる。

動詞 manage の含意は「事態成立の難しさ」である。容易に事が成立した場合に manage が用いられていても、それは文脈から結果的に、manage が本来、含意している「事態成立の難しさ」がキャンセルされるということだと考える。

成立が困難な事を敢えて実現しようとするのが manage の表すところで、それが to 不定詞に望ましくない事態が来れば矛盾が生じ、主語がわざわざ自分に不利な、しかも達成困難なことをしようとしているという点において、そのアイロニーが際立つということになる。

## 6. 注

- 1) I. Taoka, "The Implications of *Fail+to* Infinitives", *Memoirs of Osaka Institute of Technology*, Vol. 58-1, 2013, pp.1-7.
- 2) 八木克正『ネイティブの直観に迫る語法研究—現代英語への記述的アプローチ』, 研究社, 1996, 121頁.
- 3) British National Corpus Online.
- 4) 同上.
- 5) 上掲書 1).
- 6) 井上永幸・赤野一郎(編)『ウィズダム英和辞典』, 三省堂, 2003.
- 7) *Longman Dictionary of Contemporary English*, fourth edition, Pearson Education, 2003.
- 8) *Oxford Advanced Learner's Dictionary*, seventh edition, Oxford University Press, 2005.
- 9) *Macmillan English Dictionary for Advanced Learners*, second edition, Macmillan, 2007.

- 10) 瀬戸賢一(編集主幹)『英語多義ネットワーク辞典』小学館, 2007.
- 11) 上掲書 3).
- 12) WordbanksOnline.
- 13) 上掲書 3).
- 14) 上掲書 9).
- 15) L. Kartunen, "Implicative verbs", *Language*, Vol. 57, 1971, pp.340-358.
- 16) 同上.
- 17) R. Baglini and F. Itamar, "The implications of managing", *West Coast Conference on Formal Linguistics*, Vol. 31, 2013, pp.1-9.
- 18) 同上.
- 19) インフォーマントとして協力して頂いたのは、イギリス人2名、アメリカ人1名である.
- 20) 上掲書 10).
- 21) L. Coleman, "The case of the vanishing presupposition", *Proceedings of the First Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society*, 1975, pp.78-89.
- 22) 上掲書 17).
- 23) 同上.
- 24) 同上.